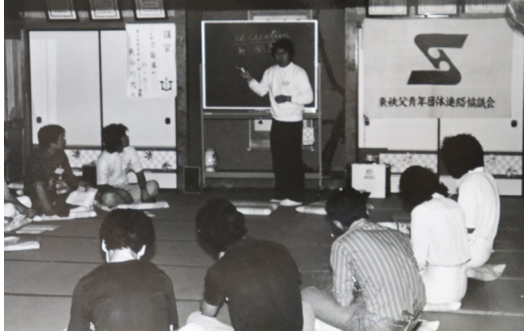

現在、東秩父村では人口減少や高齢化、新型コロナウイルス感染症の蔓延以降、地域コミュニティが減少し交流の場が減りつつあります。東秩父青年クラブもその１つで、令和７年３月に解散をしました。

しかし、東秩父青年クラブの活躍はとても輝かしいもので、地域コミュニティの担い手として村内外を問わず広く活動をしていました。

「解散をしてしまったが、今までやってきたことは決して無駄ではない。」

交流というものが少なくなっている今だからこそ、そのすばらしさを伝えていきます。

51年の歩み

東秩父青年クラブは、地域に根ざしながら、仲間とともに学び合い、地域と自分の未来を育てることを目的にさまざまなイベントの開催やボランティア活動を行っていました。

元々、東地区と西地区それぞれにあった青年団を合併したのが始まりで、昭和49年に東秩父青年クラブが誕生しました。発足から解散に至るまで、51年という長い歴史を持つ団体です。

春は宿泊研修、夏は盆踊り、秋には青年大会、冬にダンスパーティー。１年を通してさまざまな行事やイベントを開催をしながら、青年大会に披露する演劇の練習を行うなど多くの時間を仲間とともに過ごしていたといいます。

東秩父青年クラブの活動は、旧安戸農民センターやコミュニティセンターやまなみを利用していました。

「当時の記憶を振り返ると、やまなみから聞こえる演劇練習をする役者の声や舞台の小道具をどうしようかと悩む仲間の顔が思い出される。」そう名残を惜しみながらも、令和７年３月、解散届を教育委員会へ提出し、51年の歴史に幕を閉じました。

『PHOTO』
令和７年４月26日（土）、東秩父青年クラブで活動していた６名の方々がコミュニティセンターやまなみに集まりました。活動時の写真や演劇の台本、当時の思い出を語りながら振り返りました。

「青年クラブの仲間は家族のような存在だった。」

「苦労したこともあったけど、仲間がいたから乗り越えることができた。」

「僕らの青春だった。」